

# 念願の初優勝！

プレーオフ 3ホール目決着

熊本県ゴルフ協会会長も兼ねる

小杉 康之（熊本空港）



【写真はプレーオフを制して初優勝の小杉Ⓔと2位の田中Ⓔ】

熊本県ゴルフ協会の会長としてエッヘンの初優勝だ。もつれにもつれた田中との闘い。17日の決勝ラウンドも同じ最終組。そしてプレーオフ。21ホール目の決着となった。「取りたかったタイトル。いつも熊本の同じレベルの仲間鍛えられていますから」と小杉がヤレヤレの表情を浮かべた。

プレーオフは9番ショート（180ヤード）と1番ロング（500ヤード）の繰り返し。1、2ホール目はともにパーの後の3ホール目のショートだった。先に田中がピン左2・5メートルに1オンしてプレッシャーをかけたが、小杉もピン左下3メートルに乗せてのパター勝負となった。「パットと曲がらないドライバーに自信がある」と言う小杉が先にバーディーパットをねじ込んで、今度は逆に田中に圧力をかける。田中の強めのバーディーパットはカップ横をすり抜けて、勝者と敗者が決まった。小杉のプレーオフは通算1勝3敗となった。

決勝ラウンドの18ホールはともに譲らない激闘となった。田中の1打リードでスタートし、前半のアウトを折り返した時点で小杉が1打リード。が、小杉は後半のインで13番までの4ホールで3ボギー。田中が14番でバーディーを奪って、小杉は1打ビハインドとなった。残りホールも少なくなり、迎えた17番ミドル（410ヤード）は難しいホールの1つ。最終組が来るまで誰1人と



てバーディーはいなかった。ここで小杉はピン奥25ヤードからチップインバーディー。この一撃がプレーオフへつながっていく。「これまで25年間、アプローチのイップスに悩んでいた。ビジェイ・シンらの逆ハンドを取り入れてやってみたら、転がり良くなった。グリーン周りが安心しておられる」と苦手なアプローチが得意分野になっている。使用クラブはPWが9Iで、パターの感じで打つという。

ゴルフは27歳から始めた。高校時代（熊本・九州学院）時代は「喧嘩ばかりしていてね。それならうちの部に来い」と誘われたのがボクシング部。全国大会の経験はないが、九州大会には出場した。ここぞという時の勝負勘はボク

シングで培われたのかもしれない。

不動産会社の役員であり、ゴルフ場経営もしながら、プレーヤーや競技委員も務める。「ゴルファー、運営、オーナーの気持ちも分かる。少しでもゴルフの繁栄のために寄与したい」。今年8月下旬には37クラブ、291人が参加した熊本県ゴルフ場対抗戦も企画して、成功を収めた。熊本県ゴルフ協会会長に就任して今年で3年目。軽いフットワークを生かして、ゴルフ場内外を飛び回る。

## 7年ぶり2度目のVならず

### 2位の田中 雅之（若木）



田中の2013年以来、7年ぶり2度目の優勝はならなかった。昨年続き2年連続の2位に「また2位。泣きそう。でも、できる限りのことはやったし、悔いはない」と悔しさを胸の中に押し込めた。プレーオフ3ホール目で敗れたのだが、田中がちょっと顔をしかめたのが2ホール目のロングでのバーディーパット。「入ったかな、と思ったけど。勝負どころで弱かった。しょうがない」。これでプレーオフは5勝2敗。相性の良かったプレーオフだったが、今回は脇役となってしまった。



【写真は大会が開催された小郡CC】